

福井県の治安情勢 [8月末現在]

(令和2年8月末数値は暫定のものを含む)



令和2年6月9日 県警察ヘリコプター「くずりゅう」による救助訓練



— 福井県警察 —

1 刑法犯

(1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は1,772件で、前年同期に比べて303件(14.6%)減少

検挙件数は1,114件で、前年同期に比べて128件(10.3%)減少

検挙率は62.9%で、前年同期に比べて3.0ポイント上昇

		H29	H30	R1	R2.8末
福井	認知件数(件)	3,231	3,197	3,132	1,772(-303)
	検挙件数(件)	1,764	1,786	2,023	1,114(-128)
	検挙人員(人)	1,150	1,117	1,291	785(±0)
	検挙率(%)	54.6	55.9	64.6	62.9(+3.0p)
全国	認知件数(件)	915,042	817,338	748,559	408,711(-86,492)
	検挙件数(件)	327,081	309,409	294,206	180,830(-6,990)
	検挙人員(人)	215,003	206,094	192,607	118,044(-6,113)
	検挙率(%)	35.7	37.9	39.3	44.2(+6.3p)

※1 表の()内は、前年同期比を示す

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

(2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は22件で、前年同期に比べて6件(37.5%)増加

検挙件数は19件で、前年同期に比べて5件(35.7%)増加

【認知件数】

(単位:件)

	H29	H30	R1	R2.8末
殺人	6	7	9	0(-3)
強盗	8	7	1	3(+2)
放火	6	4	3	1(-2)
強制性交等	2	7	2	4(+2)
略取・誘拐	2	2	0	1(+1)
強制わいせつ	8	12	11	13(+6)
合計	32	39	26	22(+6)

【検挙件数】

(単位:件)

	H29	H30	R1	R2.8末
	6	7	8	0(-2)
	8	7	1	3(+2)
	6	4	3	1(-2)
	2	7	2	4(+2)
	2	2	0	1(+1)
	8	12	11	10(+4)
	32	39	25	19(+5)

(3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は997件で、前年同期に比べて213件（17.6%）減少

（単位：件）

	H29	H30	R1	R2.8末
車上ねらい	202	277	147	144(+36)
自転車盗	484	487	477	191(-131)
万引き	509	516	516	325(-20)
置き引き	201	205	217	86(-58)
器物損壊	324	335	261	155(-3)
空き巣	78	63	79	27(-18)
忍込み	46	38	58	21(-25)
住居侵入	49	45	62	48(+6)
合計	1,893	1,966	1,817	997(-213)

2 子供を犯罪から守る対策

(1) 子供に対する声かけ事案等

相談等件数は145件で、前年同期に比べ23件（13.7%）減少

（単位：件）

	H29	H30	R1	R2.8末
小学生以下	82	95	114	60(-20)
中学生	52	47	49	42(+6)
高校生	79	89	81	39(-12)
その他	10	4	4	4(+3)
合計	223	235	248	145(-23)

※ 声かけ事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声かけ、つきまとい等をいう。

(2) 子供への声かけ事案等に対する先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は60件で、前年同期に比べて2件（3.2%）減少

（単位：件）

	H29	H30	R1	R2.8末
検挙	26	24	40	13(-9)
指導・警告	64	68	72	47(+7)
合計	90	92	112	60(-2)

(3) 主な施策

- ア 警察官が地域の「子供110番の家」を訪問し、不審者情報等の提供や「ながら見守り」への協力を依頼
- イ 学校の夏期休学明けに伴う通学路等の警戒・パトロールの強化、防犯ボランティアと連携した見守り活動、被害防止啓発活動の推進
- ウ 声かけ事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- エ リュウピーネットやGIS（安全・安心マップ）によるタイムリーな不審者情報の発信



「子供110番の家」に対する「ながら見守り」への協力依頼



防犯ボランティアと連携した見守り活動の推進

3 非行少年を生まない社会づくり

(1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は84人で、前年同期に比べて11人（15.1%）増加

（単位：人）

	H29	H30	R1	R2.8末
犯罪少年	95	87	103	60(+3)
触法少年	38	22	23	22(+8)
ぐ犯少年	0	0	4	2(±0)
非行少年総数	133	109	130	84(+11)

(2) 主な施策

- ア 非行防止教室の教材集を学校や家庭で活用できるよう、県警察ホームページや動画配信サイトに掲載
- イ 青少年の非行・被害防止全国強調月間（R2.7.1～7.31）において、少年がい集しやすい施設の管理者に対し、青少年育成機関と連携した呼び掛け運動の実施



非行防止教室の教材集を掲載



施設管理者に対する呼び掛け運動

4 女性を犯罪から守る対策

(1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は165件で、前年同期に比べて16件(10.7%)増加

検挙件数は146件で、前年同期に比べて4件(2.8%)増加

(単位:件)

	H29		H30		R1		R2.8末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
強制性交等	2	2	7	7	2	2	4(+2)	4(+2)
強制わいせつ	8	8	12	12	11	11	13(+6)	10(+4)
略取誘拐・人身売買	2	2	2	2	0	0	1(+1)	1(+1)
暴行	106	102	103	97	161	155	107(+14)	98(+8)
傷害	43	43	36	35	64	65	40(-7)	33(-11)
合計	161	157	160	153	238	233	165(+16)	146(+4)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は97件で、前年同期に比べて20件(26.0%)増加

検挙件数は21件で、前年同期に比べて5件(31.3%)増加

(単位:件)

	H29	H30	R1	R2.8末
相談等	74	74	121	97(+20)
検挙	29	8	23	21(+5)
禁止命令・警告	40	27	49	37(-2)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は185件で、前年同期に比べて31件(20.1%)増加

検挙件数は103件で、前年同期に比べて10件(10.8%)増加

(単位:件)

	H29	H30	R1	R2.8末
相談等	174	187	237	185(+31)
検挙	88	99	144	103(+10)
保護命令	10	9	7	9(+4)
警告	70	70	70	67(+26)

(4) 主な施策

ア ストーカー・DV事案に対する被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底

イ ストーカー行為者に対応する警察官が、精神科医やカウンセラーから、ストーカー行為の再発防止のための対応方法について専門的な助言等を受け、行為者の更生を支援

※ R2.8末:12事案について12回実施

5 高齢者を犯罪から守る対策（特殊詐欺対策）

(1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の1万円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は15件で、前年同期に比べて4件（21.1%）減少
- ・ 被害金額は約2,822万円で、前年同期に比べて約6,640万円（70.2%）減少

【被害の特徴】

- ① 手口別では、預貯金詐欺と架空料金請求詐欺の割合が多い（各5件、33.3%）
- ② 65歳以上の割合は約7割（11件、73.3%）
- ③ 交付形態別では、「キャッシュカード手交型」5件、「キャッシュカード窃取型」3件、「電子マネー型」3件、「送付型」3件、「振込型」1件

	H29		H30		R1		R2.8末	
	認知 (件)	被害額 (万円)	認知 (件)	被害額 (万円)	認知 (件)	被害額 (万円)	認知 (件)	被害額 (万円)
オレオレ	26	9,765	6	661	3	53	0(-2)	0(-53)
預貯金	—	—	—	—	—	—	5(+5)	647(+647)
架空料金請求	39	10,302	22	10,373	12	9,233	5(-6)	730(-7,975)
融資保証金	2	188	2	215	3	600	1(±0)	35(-423)
還付金	5	535	0	0	2	96	0(-2)	0(-96)
金融商品	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
ギャンブル	1	534	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
交際あっせん	0	0	1	51	0	0	1(+1)	1,056(+1,056)
その他	3	2,600	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
キャッシュカード詐欺盗	—	—	1	429	6	1,486	3(±0)	354(+204)
合計	76	23,924	32	11,729	26	11,468	15(-4)	2,822(-6,640)

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。従来、オレオレ詐欺として計上していたもののうち、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るものについては、令和2年1月から預貯金詐欺の分類で計上。

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。平成30年から計上。

(2) 検挙状況（助長犯罪*を含む）（H30以降キャッシュカード詐欺盗を含む）

検挙人員は20人で、前年同期に比べて1人（4.8%）減少

	H29	H30	R1	R2.8末
検挙件数（件）	49	39	50	28（+4）
検挙人員（人）	51	36	39	20（-1）

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

(3) 主な施策

特殊詐欺緊急対策プロジェクトチーム（H29.11発足）による被害防止と検挙を両輪とした対策を推進

ア 被害防止対策

- 予兆電話認知時等におけるリュウピーネットやツイッター、Yahoo!防災速報による県民へのタイムリーな情報発信
- オートコールシステムによる金融機関、タクシー事業者に対する速やかな情報配信
- 押収名簿登載者を重点とした制服警察官による高齢者宅への巡回連絡や、高齢者が集まる場所での分かりやすい出前講座による直接指導
- 金融機関等における声掛け訓練の実施や、コンビニエンスストアでの「電子マネー用注意喚起封筒」、「注意喚起スタンド」を活用した被害防止対策
- 情報誌を活用した広報啓発活動



電子マネー用注意喚起封筒



金融機関における
声掛け訓練



情報誌を活用した広報啓発

イ 取締り

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 他の都道府県警察との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
 - ・ フィリピンを拠点とする特殊詐欺の犯行グループの逮捕（R2.1～）
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

6 暴力団等組織犯罪対策

(1) 暴力団対策

ア 検挙状況

検挙人員は 40 人、前年同期に比べて 27 人 (40.3%) 減少 (単位：人)

	H29	H30	R1	R2.8 末
刑法犯	34	76	63	27 (-10)
特別法犯	42	36	45	13 (-17)
合計	76	112	108	40 (-27)

イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底 (H29.4～)

ウ 取締り

- 六代目山口組系関係者らによる常習賭博、組織犯罪処罰法違反事件 (R2.6)
- 六代目山口組系幹部による労働者派遣法違反事件 (R2.8)

エ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進
- 国土交通省近畿地方整備局等とのさらなる連携強化により、県内で建設が進む足羽川ダムをはじめとする大型公共事業からの暴力団排除を徹底 (R2.8)



足羽川ダム建設事業不当要求対策連絡会

(2) 薬物犯罪対策

検挙人員は 39 人で、前年同期と同数 (単位：人)

	H29	H30	R1	R2.8 末
覚醒剤	47	37	46	23 (-5)
大麻	16	13	17	16 (+6)
その他	1	0	1	0 (-1)
合計	64	50	64	39 (±0)

7 交通事故から県民を守る対策

(1) 交通事故の発生状況

交通事故死者数は20人で、前年同期に比べて1人(5.3%)増加

死者のうち8人は歩行中の事故であり、前年同期に比べて5人(166.7%)増加

	H29	H30	R1	R2.8末
総事故件数(件)	25,060	25,540	21,990	11,653(-2,822)
人身事故件数(件)	1,549	1,398	1,168	560(-226)
死者数(人)	46	41	31	20(+1)
傷者数(人)	1,761	1,589	1,333	618(-288)
物損事故件数(件)	23,511	24,142	20,822	11,093(-2,596)

※ 全国の交通事故死者数 (R2.8末) は1,745人で、前年同期に比べて180人減少

(2) 交通事故から高齢者を守る対策

ア 高齢者(65歳以上)が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者数は16人で、全死者数の8割(80.0%)

	H29	H30	R1	R2.8末
全死者数(人)	46	41	31	20(+1)
高齢死者数(人)	25	28	18	16(+5)
構成率(%)	54.3	68.3	58.1	80.0(+22.1p)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者(歩行者・自転車乗用中)の死者数は11人で、前年同期に比べて4人(57.1%)増加

歩行中の死者は7人で、高齢交通弱者の死者数の約6割(63.6%)

夜間歩行中の事故死者数は3人であり、いずれも反射材非着用 (単位:人)

	H29	H30	R1	R2.8末
高齢交通弱者の死者数	17	15	12	11(+4)
歩行中	14	10	8	7(+4)
自転車乗用中	3	5	4	4(±0)

ウ 主な施策

- 高齢交通弱者に対する参加・体験・実践型の交通安全教室
- 反射材普及協力店等と連携した反射材普及促進活動
- 高齢交通弱者に対する反射材タスキの貸与等の保護誘導活動



歩行環境シミュレーター
を活用した交通安全教室



反射材着用効果の広報活動

(3) 高齢運転者対策

ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる死亡事故は6件で、前年同期と同数

(単位：件)

	H29	H30	R1	R2.8末
交通死亡事故件数	46	39	31	19(±0)
高齢運転者が第1当	12	15	8	6(±0)

イ 主な施策

- ドライブレコーダーを活用した個別の交通安全指導
- 運転技能診断評価システムの体験講習会の開催
- 過去に複数回事故歴を有する高齢者に対する訪問指導



ドライブレコーダーを活用した
個別の交通安全指導



運転技能診断評価システムの
体験講習会の開催

(4) 悪質・危険運転者対策

ア 飲酒運転対策

(ア) 飲酒運転による人身事故（運転免許を必要とする車両によるもの）

飲酒運転による人身事故は6件で、前年同期に比べて8件（57.1%）減少
死亡事故件数は2件で、前年同期と同数

	H29	H30	R1	R2.8末
人身事故件数（件）	26	20	23	6（ -8）
死亡事故件数（件）	7	3	2	2（ ±0）
構成率（%）	26.9	15.0	8.7	33.3(+24.6p)

(イ) 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は83件で、前年同期に比べて43件（34.1%）減少

	H29	H30	R1	R2.8末
検挙件数（件）	201	229	223	83（ -43）

(ウ) 主な施策（飲酒運転根絶気運の醸成）

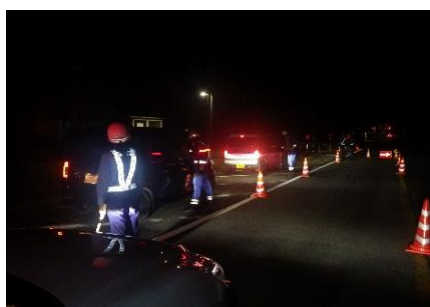
- ハンドルキーパー運動の広報啓発
- 小学児童等を「リュウピー・リュウミー交通保安官」に任命し、家庭や地域から飲酒運転根絶気運を醸成
- 県内居住地区別の飲酒運転取締り状況を表した「飲酒運転マップ」を県警ホームページに掲載し、広報啓発活動や交通安全講習等で活用

イ いわゆる「あおり運転」対策

車間距離保持義務違反の検挙件数は73件で、前年同期に比べて17件（30.4%）増加
進路変更禁止違反の検挙件数は3件で、前年同期に比べて7件（70.0%）減少

（単位：件）

	H29	H30	R1	R2.8末
車間距離保持義務違反	3	42	103	73（ +17）
進路変更禁止違反	3	8	10	3（ -7）



飲酒運転取締りの一斉検問



関係機関と連携した高速道路における「あおり運転」の取締り